

2020年9月15日

三井化学株式会社

三井化学、長岡技術科学大学とプラスチック廃棄物の再利用を促進する技術を共同研究 ～サーキュラーエコノミーの実現に向けた実効性あるプラスチックリサイクル技術の開発～

三井化学株式会社（所在：東京都港区、代表取締役社長：橋本修）は国立大学法人長岡技術科学大学（所在：新潟県長岡市、学長：東信彦）大学院工学研究科 機械創造工学専攻 高橋勉教授と、プラスチック廃棄物の再利用を促進する革新的な技術の共同研究を開始しました。



長岡技術科学大学



左より 高橋教授、東学長、三井化学柴田常務、三井化学伊崎 RF

プラスチック廃棄物は、様々な状態のプラスチックの混合物である場合が多く、マテリアルリサイクルにて加熱加工する際、加熱溶融されたプラスチックの流動性が一定ではないため、得られる再生プラスチックが一定の流動性や品質を維持できないことや、用途が限定されるといった問題を抱えています。本共同開発では、加熱溶融されたプラスチックの流動性をインラインで計測・制御を行い、再生プラスチックの品質を安定化させるための技術を3年計画で開発する予定です。

三井化学は、2018年4月にESG推進室を設置し、ESG要素を経営・戦略に積極的に取り込み、「環境と調和した共生社会」、「健康安心な長寿社会」の実現に向けてビジネスモデルの変革を進めています。

また、2019年3月に新潟県内に新拠点であるデザイン&ソリューションセンターを開設し、国内関係会社の金型製造メーカー共和工業（株）との連携によるものづくりの開発機能を活用したソリューション提案を通じて、持続的に社会価値を創造していくことを目指しています。

長岡技術科学大学は、2018年に国連から国連アカデミック・インパクトにおけるSDGsゴール9（産業と技術革新の基盤をつくらう）のハブ大学に任命されています。SDGsに係る取組を牽引する役割を担うハブ大学はSDGsの各ゴールにつき世界で1大学のみが任命されるもので、東アジアにおける任命は長岡技術科学大学が唯一です。長岡技術科学大学は持続可能な世界の実現に向け早くから積極的な取組を行っており、国連からSDGsに関する革新的な取組の模範大学として高い評価を受けています。

*長岡技術科学大学リリース：<https://www.nagaokaut.ac.jp/shincyaku/202009/200915.html>

以上

<本件に関する問い合わせ> 三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部（TEL：03-6253-2100）